

2020年2月19日

GEOトークセッションVol.5

水と考えるまちづくり 東京2020大会アクション

東京2020のレガシーとしての 給水スポットのまちづくりへ

水Do!ネットワーク 事務局長

瀬口 亮子

水Do！（スイ・ドウ）とは

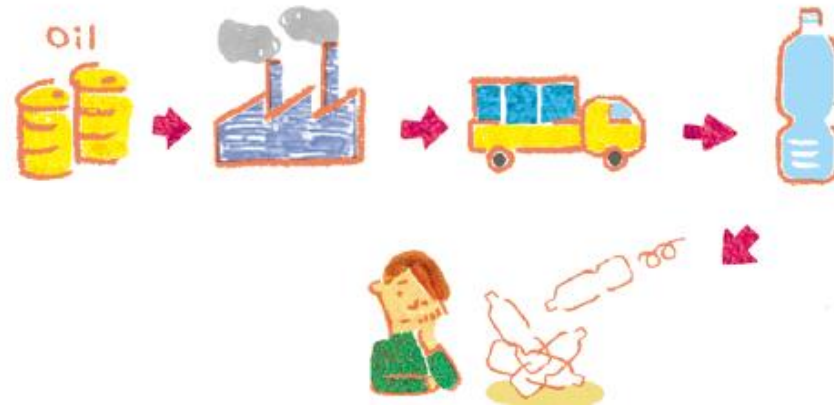


ペットボトル等の使い捨て（ワンウェイ）容器入りの飲料の利用を減らし、水道水の飲用を推進することにより、環境負荷の低減、地域の水資源保全、人にやさしいまちづくりを促進するキャンペーン。

2010年6月国際環境NGO FoE Japanの活動として開始、2014年度より水Do!ネットワークとして活動を拡大。

なぜ水Do! ?

環境負荷をへらす



12 つくる責任
つかう責任



13 気候変動に
具体的な対策を



- ペットボトル等の使い捨て容器入り飲料は、容器の製造・飲料の長距離輸送・販売時の冷蔵・使用後の容器のリサイクルといったライフサイクルで、多くの資源・エネルギーを消費し、CO2を排出。
- 水道水を上手に飲用利用すれば、環境負荷を大きく削減できる。

ペットボトルの生産量とリサイクル率の推移

生産量(重量)は20年間で約5倍に

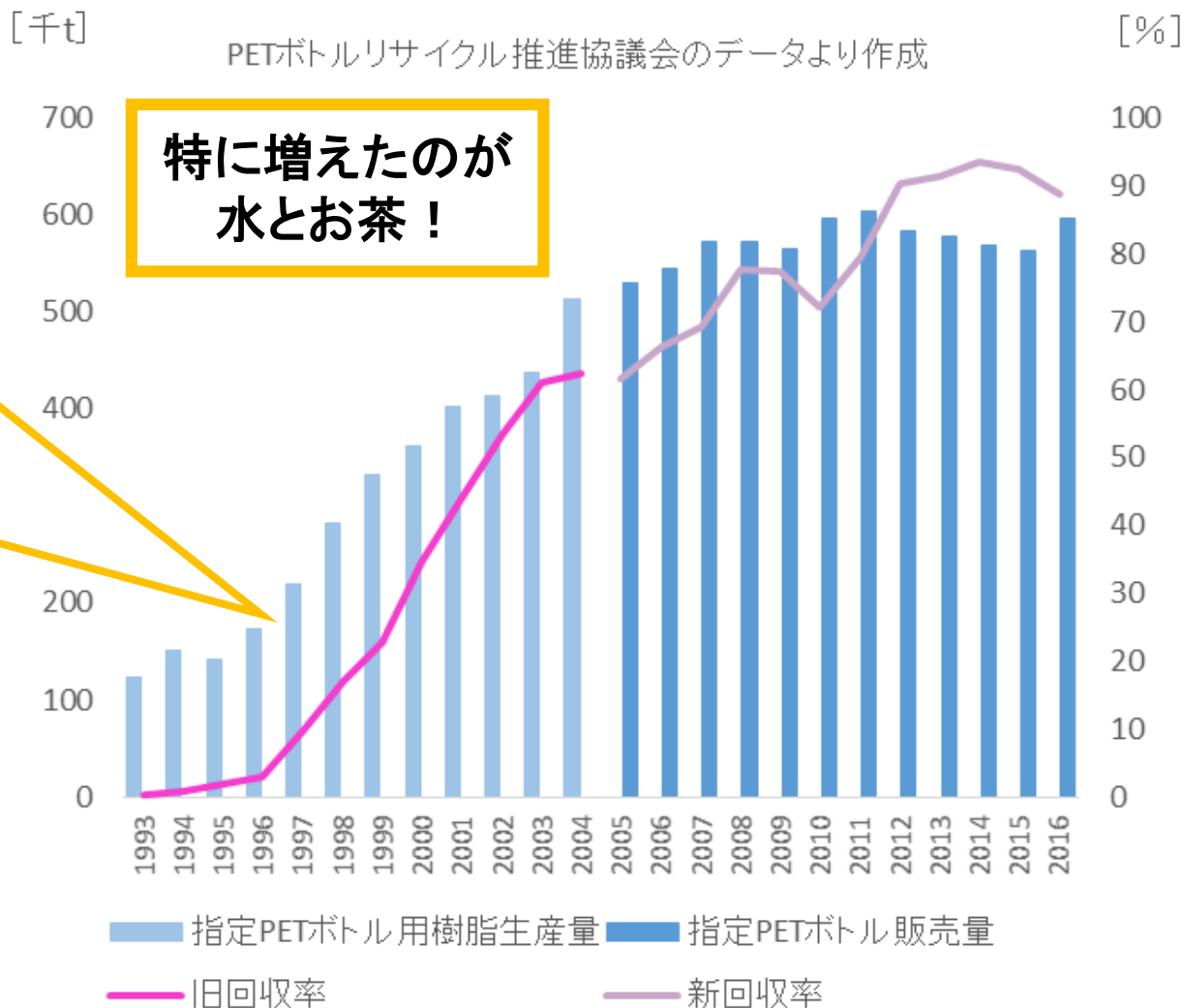
1996年

小型ペットボトル
登場

1997年

容器包装リサイ
クル法による自
治体の分別収集
開始

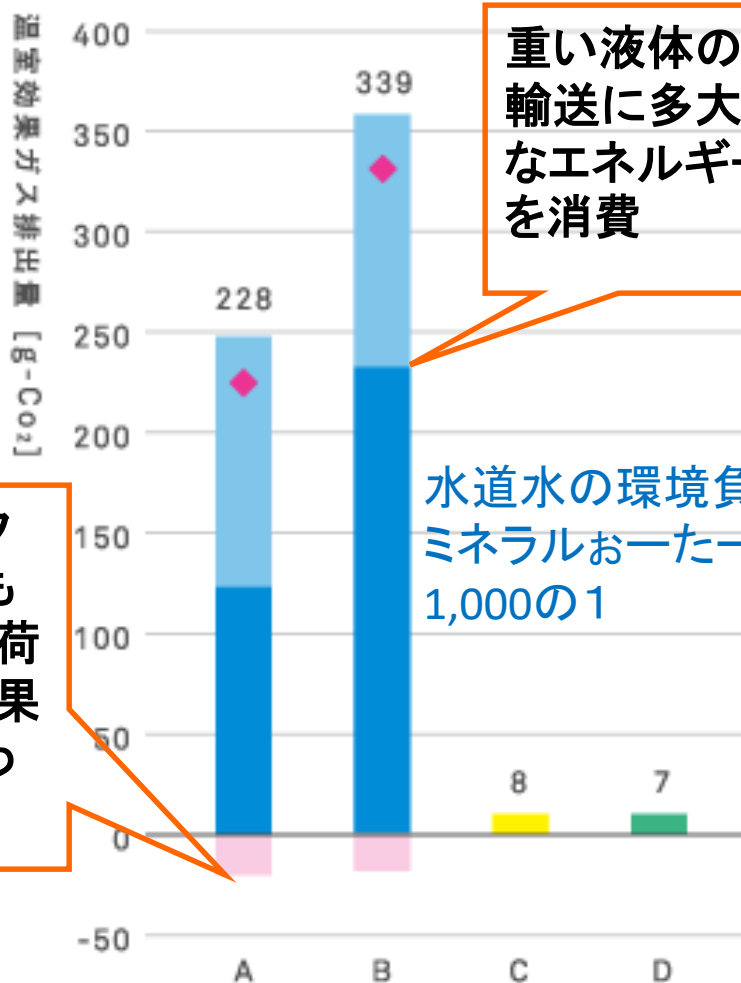
ペットボトルの生産量・販売量と回収率の推移



ペットボトル入り飲料水と水道水の 環境負荷比較 その差は歴然

飲料水 (500ml) 利用のCO₂排出量比較

東京大学・平尾研究室による試算



重い液体の
輸送に多大
なエネルギー
を消費

水道水の環境負荷は
ミネラルウォーターの
1,000の1

リサイク
ルしても
環境負荷
軽減効果
はごくわ
ずか

- A ペットボトル入り国産ミネラルウォーターを自動販売機で購入して飲む。ボトルはリサイクルへ。
- B ペットボトル入り輸入ミネラルウォーターを自動販売機で購入して飲む。ボトルはリサイクルへ。
- C 冷水機を使用して、水道水を飲む。
- D 浄水した水道水をアルミ水筒に入れて飲む。

- ペットボトル飲料水の生産・流通
- ペットボトル飲料水の販売
- 水道水の供給
- 冷水機・浄水器の使用
- 飲用容器の使用
- ペットボトルのリサイクル

◆ ペットボトルリサイクルによる
排出回避分を含むCO₂排出合計値

なぜ水Do! ?

地域の水を守る

- 水は、地域の共有財産。水源の森も、川も、地下水も、水を共有する地域全体で守ることが必要。
- 「飲む」ことを通して、地域の水資源に関心を持つことは、地域の水を保全する活動の第一歩
- その先の海にも配慮した行動につながる。



なぜ水Do! ?

人にやさしく潤いのある社会をつくる

- 人は誰でも水がなくては生きられない。
- 人々が健康を維持するための水分補給インフラを用意することは、公共の責任。
- 「街のオアシス」が増えることで、魅力的なまちづくりにつながり、新たなコミュニケーションが生まれる。



水Do!がめざす2020年の日本

- (1) 会議の場に使い捨て容器入り飲料はない！
特に省庁、自治体の審議会等
- (2) 街中にオアシスがたくさんある！
公共の水飲みインフラ+店舗等の給水
サービスの提供、案内掲示の徹底
- (3) 自然保護区等はペットボトルフリー！



東京オリンピック・パラリンピック を水飲みインフラ整備の契機に

- 真夏の東京での開催⇒熱中症対策
- そもそもスポーツ施設に給水インフラは必須
- レガシーとして街を変えるチャンス



- 競技場内に多くの水飲み場、給水設備を
- 競技場内への水筒持ち込みを可能にし、持参呼びかけを
- 街中（屋内外）に、誰もが使える水飲み場、給水設備を

国内外の給水スポットに関する調査と 動画「ひろげよう！オアシスのあるまちづくり」



<http://sui-do.jp/news/3244>

水Do!およびRefill Japanのサイトトップページからリンクしています。

給水スポットを広げよう！ 2019年5月、Refill Japanキックオフ！



Refill Japanとは



- 誰もが気軽に利用できる街中の水飲み場・給水機や、水筒に無料で給水してくれる店舗等の「給水スポット」を増やし、利用を広げることで、ペットボトル等の使い捨て容器入り飲料の利用を減らし、環境負荷の低減、魅力的なまちづくり等を推進する活動のプラットフォーム。
- 地域で給水スポットづくりに取り組む市民団体、行政、企業等、様々な主体がプラットフォームに参加。
- 英国のRefillキャンペーンと提携。
- 公式サイト<https://www.refill-japan.org>

Refill Japanの給水スポット

【大原則】

- 誰でも無料で利用できる(× 会員制、× 特定のボトルの購入義務等)
- 水道水である(× 宅配水のウォーターサーバー等)



【スタイル】

- 水飲み場(常温、冷水)
- 水筒用給水機
- 店舗での給水サービスなど



地域リフィルの活動が主役

- 給水スポットの開拓や地域での普及啓発活動は、日頃から地域で生活する地元の人々でなければ効果的・継続的な活動にならない。
- 地域ごとに市民団体、行政、事業者が連携して推進。
- 既存の水飲みインフラの確認、登録、モニタリング
- 地域のお店に給水スポットへの参加を呼び掛ける
- イベント会場に給水ステーションを導入する
- 地元の自治体や交通機関などに給水インフラの設置を働きかける



給水スポット拡大のための様々なツール

- スマホで利用できる給水スポット検索マップ制作(位置、給水スポットの種類、提供される水/湯/茶等の情報掲載)= 原則すべて実地確認による日本一信頼できる給水スポット地図
- マップの利用促進のための呼びかけ、ポストカード
- 給水スポットの店舗用ステッカー、ミニポスター
- 水筒用ステッカー



公共の給水スポット



都営地下鉄全駅



生駒駅前



直飲み & 水筒給水
ハイブリッド型冷水樹



東京国際フォーラム



熊本せんば

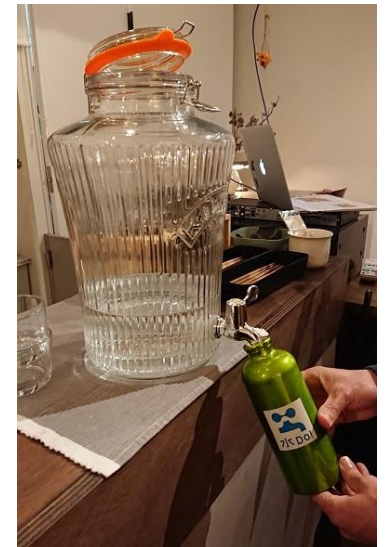
協力店舗の給水スポット



Refill東京給水スポット店舗第1号



リユースショップ



ガラスのジャグ



都内カフェ



香川うどん店

仮設給水機の活用による啓発活動、実証実験

- 日本初の水道直結式仮設給水機を導入(オリジナルデザイン:直飲み用+水筒給水用)。
- 2019年6月エコライフフェア(東京・代々木公園)、7月祇園祭(京都)、天神祭(大阪、12月エコプロダクツ(東京ビッグサイト))で使用。
- 熱中症対策と啓発効果を実証し、多くの自治体(環境・水道部門)等が関心。
- 街中で短期間設置し、ニーズの把握等、実証実験も予定。常設インフラ設置への橋渡しに。



2020東京オリパラをめぐる状況と Refill Japanの計画

- 水Do!は、招致決定直後から、会場内への水筒持ち込み許可と、会場内外での給水ステーション設置を働き掛け
- 東京都水道局、環境局の対策
- Refill Japanのオリパラ前都内 & 全国アクション
- 開催期間中の会場周辺での給水ステーション設置

Refill Japanの参加方法

- Refill Japanのボランティアに参加する
- 地域のRefillの活動に参加する
- 地域のRefillを立ち上げる
- 給水協力店舗になる
- 個人サポーターになる
- 企業パートナーになる



※ご関心をお持ちの方は、お気軽に事務局にご連絡ください。

E-mail: info@refill-japan.org